

安全・安心な市民生活の確保

1	下水道施設の改築・修繕	施策評価	A
取り組みの方向性	●下水道施設の老朽化による道路陥没や排水不良など、市民生活へ重大な影響を及ぼさないよう、維持修繕基準に基づき日常的な維持管理及び、計画的な下水道施設の点検・調査や改築・修繕などの老朽化対策を進めます。また、雨天時浸入水などを原因とする降雨時の汚水量増加の問題について、その対策に取り組みます。	評価理由 北部ポンプ場の老朽化対策工事は工期をR7年度まで延長しましたが、その他取り組みは、指標（評価）等からおおむね順調に取り組みが実施されているため、評価を「A」としました。	

指標

指標名	R3年度末 （基準）	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 （R10）	評価	説明
1-(1) ポンプ設備整備実施率（％） （雨水）	14.6	16.7	16.7	20.8	29.2	4	整備対応ポンプ設備数／雨水ポンプ場のポンプ設備数×100
1-(2) 管路調査点検実施率（％） （汚水）	48.0	94.0	100.0	100.0	100.0	4	調査点検の実施延長／ストックマネジメント計画（短期計画）の延長×100
1-(3) ポンプ棟（建築物）の改築・修繕実施率（％） （雨水・汚水）	6.7	6.7	6.7	26.7	73.3	3	改築・修繕実施数／雨水・汚水ポンプ棟の総数×100
（指標評価 平均値）						4	

具体的取組

取組内容		R6年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R6年度 実績			
1-①	下水道施設の点検・調査結果等に応じて下水道ストックマネジメント計画を修正します。 （雨水・汚水）	下水道施設の点検・調査の結果にあわせて、必要に応じて対策工事等の計画を追記修正します。 今年度は対策工事等の計画について、追記修正を行う必要はありませんでした。	4	4	4
1-②	下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水ポンプ場のポンプ設備の整備に取り組みます。	北部ポンプ場7号ポンプおよび黒田川第一ポンプ場3号ポンプ設備の分解整備を完了します。 （R6年度：2台、累積：48台中10台整備完了、ポンプ設備整備実施率20.8％） 北部ポンプ場7号ポンプおよび黒田川第一ポンプ場3号ポンプ設備の分解整備を実施しました。（R5・R6の2箇年事業） R6年度末の累積実績で、48台中10台整備完了となりました。（実施率：20.8％）	4	4	4

令和6年度「枚方市下水道ビジョン 2022」施策評価シート（速報版）

1-③	下水道長寿命化計画に基づく汚水管路の改築に取り組みます。	茄子作北町の管路改築工事について、R6年度の完成を目指します。 繰越した茄子作北町地区の管路改築工事がR6年6月に完成しました。	4	3	4
1-④	下水道ストックマネジメント計画に基づく汚水管路の計画的な点検、調査に取り組みます。	北楠葉町地区他において、点検約118km、調査約8kmに取り組みます。 北楠葉町地区他において、点検113.133km、調査8.376kmに取り組みました。	4	4	4
1-⑤	下水道ストックマネジメント計画に基づく下水道施設（污水）の計画的な改築に取り組みます。	伊加賀寿町地区他において、約168mの管更生工事を行います。 伊加賀寿町地区他において、167.1mの管更生工事を行いました。	4	4	4
1-⑥	下水道施設（雨水）の維持管理による機能維持と浸水の防除に取り組みます。	週1回、雨水大ポンプ場（北部ポンプ場、藤本川ポンプ場、安居川ポンプ場、新安居川ポンプ場、溝谷川ポンプ場）の点検を実施します。 雨水大ポンプ場の点検を週1回（毎週火曜日を基本）実施しました。	4	4	4
1-⑦	下水道ストックマネジメント計画に基づく雨水・污水ポンプ棟（建築物）の改築・修繕に取り組みます。	2施設（サダポンプ場および藤本川ポンプ場）の建築物の老朽化対策工事に着手します（R6・R7の2箇年事業） 犬田川ポンプ場の老朽化対策の実施設計を行います。 4施設（溝谷川ポンプ場（2施設）、北部ポンプ場、安居川ポンプ場）の建築物の老朽化対策工事を行います。 （R6年度：4施設、累計：全15施設中5施設対策完了、ポンプ棟（建築物）の改築・修繕実施率33.3%） サダポンプ場および藤本川ポンプ場は老朽化対策工事に着手し、R7年度に完了します。 犬田川ポンプ場は実施設計が完了し、R7年度に工事を実施します。 溝谷川ポンプ場（2施設）及び安居川ポンプ場の老朽化対策工事を実施しました。 予定していた北部ポンプ場は既存建物の補修数量の大幅な増加により工期をR7年度まで延長し引き続き実施します。 R6年度末時点で、雨水・污水ポンプ場全15施設中4施設対策完了しました。（改築・修繕実施率：26.7%）	3	3	3
（具体的取組達成状況 平均値）					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

2	下水道施設の耐震化	施策評価	A
取り組みの方向性	●地震時も下水道の機能が確保できるよう、被災による影響が大きい緊急輸送路などに埋設されている管渠や軌道・河川を横断している管渠及びポンプ場などの重要な施設から計画的に耐震化を進めます。	評価理由 汚水管路では、目標どおり耐震化工事を実施しました。また、雨水ポンプ場は単年度目標を上回る耐震性の確保ができました。おおむね順調に耐震化をすすめているため、評価を「A」としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
2-(1) ポンプ場の耐震化率（％） （雨水・汚水）	19.5	24.7	26.0	39.0	85.7	4	耐震性を有するブロック数/ポンプ場内ブロック数×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

取組内容		R6年度 目標 R6年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
2-①	下水道総合地震対策計画に基づく汚水管路の耐震化を実施します。	岡東町地区他で耐震診断を実施します。また、楠葉並木地区において耐震化工事を行います。 岡東町地区他で耐震診断を実施しました。また、楠葉並木地区において耐震化工事を行いました。	3	4	4
2-②	下水道総合地震対策計画に基づく雨水ポンプ場の耐震化を実施します。	溝谷川ポンプ場、安居川ポンプ場、サダポンプ場、藤本川ポンプ場で建築物、北部ポンプ場で土木構造物の耐震化工事を行います。サダポンプ場、藤本川ポンプ場の耐震診断（非線形解析）、サダ（湛水）ポンプ場の耐震診断（線形解析）を行います。 （R6年度：8ブロック、累計：全77ブロック中28ブロックの耐震性能の確保、耐震化率36.4%） 溝谷川ポンプ場、安居川ポンプ場のポンプ棟の耐震化工事を実施しました。（3ブロック） サダポンプ場、藤本川ポンプ場の耐震診断（非線形解析含む）を実施し、土木構造の安全性を確認しました。（6ブロック） R6年度末の累積実績で、77ブロック中30ブロックの耐震性能を確保しました。（実施率：39.0%）	3	3	5
(具体的取組達成状況 平均値)					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

3	浸水被害の軽減	施策評価	A
取り組みの方向性	●計画降雨に対応する雨水整備を進めるとともに、近年の気候変動等に伴う降雨の集中化・激甚化を要因とした内水の氾濫による浸水被害からまちを守るため、計画降雨を超える集中豪雨や局所的な浸水に対して、地域の特性を踏まえた浸水対策や雨水流出抑制施設の設置などを進めます。	評価理由 浸水被害の軽減の取り組みを実施しているため、評価を「A」としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
3-(1) 浸水地区の整備率（％）	54.4	54.6	56.2	56.9	60.0	4	対策済地区数／全対策予定地区数×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

取組内容		R6年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R6年度 実績			
3-①	浸水対策地区の浸水対策を実施します。	北楠葉地区の浸水対策工事を行います。また、南楠葉地区で浸水対策の実施設計を行います。 北楠葉地区の浸水対策工事を実施しました。また、南楠葉地区で浸水対策の実施設計を行いました。	4	4	4
3-②	雨水貯留施設の確保に取り組めます。	浸水被害軽減のため、特定都市河川浸水被害対策法及び公共・公益施設における雨水流出抑制施設設置指導要綱に基づく指導や開発者への協力依頼により、貯留施設の確保を図ります。 特定都市河川浸水被害対策法に基づく開発者への指導により、423㎡の貯留施設を確保しました。また、その他の開発者への指導により、1,100㎡の貯留施設を確保しました。	4	4	4
(具体的取組達成状況 平均値)					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

水環境の保全

4	環境負荷の低減	施策評価	A
取り組みの方向性	●本市の下水道は整備当初から汚水の処理と雨水の排除というそれぞれの目的に沿った分流式を採用しており、今後も、合流式よりも環境にやさしい分流式下水道により整備を行います。	評価理由 指標についてはR10年度目標値を達成したものの、上下水道局が実施している工事において一部R7年度に繰越したため、評価を「A」としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
4-(1) 下水道処理人口普及率（％）	97.5	97.6	97.8	97.9	97.8	4	処理人口／行政人口×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

取組内容		R6年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R6年度 実績			
4-①	分流式の下水道整備を進めます。	杉責谷1丁目他全5地区において、約500mの公共下水道工事を行います。 杉責谷1丁目地区他全5地区において、506.6mの公共下水道工事を実施しましたが、牧野北町地区は繰越となりました。杉責谷1丁目地区他全4地区において公共下水道への接続が可能となりました。	3	4	3
(具体的取組達成状況 平均値)					3

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

水環境の保全

5	適正処理の推進	施策評価	A
取り組みの方向性	●生活排水の適正処理を推進するため、水洗化義務期限内の水洗化に向けて取り組むとともに、期限を超過した家屋に対しては下水道の使用に向けた指導勧告を進めます。	評価理由 指標についてはR10年度目標値を達成したものの、水洗化件数の大幅な増加はなかったため、評価を「A」としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
5-(1) 水洗化率 (%)	97.5	97.7	97.8	98.0	98.0	4	水洗化人口/処理人口×100

(指標評価 平均値)

4

具体的取組

取組内容		R6年度 目標 R6年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
5-①	水洗化率の向上に取り組めます。	水洗化（改造）義務期限の3年を超えた未水洗家屋の実態調査、指導勧告を引き続き行います。また、供用開始後3年以内の家屋所有者に対しても、法に定められた義務期限内の水洗化工事を促進するため、補助・融資あっせん制度を説明した通知文書を送付します。 義務期限を超えた未水洗家屋のうち、158戸について戸別訪問のうえ水洗化指導を行い、2度にわたる勧告文書を送付しました。その結果、20戸の家屋で水洗化されました。また、これまで蓄積してきた未水洗家屋のデータを活用して、指導効果が見込める家屋の指導を行うなど、効率的な水洗化指導を進めています。なお、供用開始後3年以内の未水洗家屋所有者に対しては、補助金・融資あっせん制度を説明した文書の送付など、義務期限内の水洗化に向けて積極的に取り組みを進めました。	4	4	4

(具体的取組達成状況 平均値)

4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

快適な生活環境の創造

6	污水整備	施策評価	A
取り組みの方向性	●住居系地域の污水整備は概成しましたが、引き続き市内に点在する未整備地区について污水の整備を進めていくことにより、公衆衛生を向上させ、快適な生活環境を創造します。	評価理由 指標についてはR10年度目標値を達成したものの、上下水道局が実施している工事において一部R7年度に繰越したため、評価を「A」としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
6-(1) 下水道整備人口普及率（%）	97.5	97.6	97.8	97.9	97.8	4	整備人口／行政人口×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

取組内容		R6年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R6年度 実績			
6-①	分流式の下水道整備を進めます。	杉責谷1丁目他全5地区において、約500mの公共下水道工事を行います。 杉責谷1丁目地区他全5地区において、506.6mの公共下水道工事を実施しましたが、牧野北町地区は繰越となりました。杉責谷1丁目地区他全4地区において公共下水道への接続が可能となりました。	3	4	3
(具体的取組達成状況 平均値)					3

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

快適な生活環境の創造

7	雨水整備	施策評価	A
取り組みの方向性	●人命や財産を守り、交通などの都市機能を確保するため、計画降雨に対応する雨水整備を進め、安心して生活できる環境を創造します。	評価理由 計画降雨に対応する雨水整備に取り組んでいるため、評価を「A」としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
7-(1) 主要な幹線管渠の整備率 (%)	46.3	46.3	46.3	46.3	46.9	4	整備延長/計画延長×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

取組内容		R6年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R6年度 実績			
7-①	下水道計画に基づく雨水整備を進めます。	藤阪元町地区の工事に先立ち、ガス、水道、NTTの移設工事を依頼します。 藤阪元町地区の工事に先立ち、ガス、水道、NTTの移設工事を行いました。	3	4	4
(具体的取組達成状況 平均値)					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

8	財政基盤の強化	施策評価	
取り組みの方向性	●下水道事業を効率的かつ継続的に提供するため、将来予測に基づいた投資計画や財政計画を適切にマネジメントすることで、経営の健全化と経営基盤の強化に取り組みます。 ●将来の使用水量の減少を見据えた使用料体系を実現し、健全かつ持続可能な事業運営を行うため、総括原価に基づく使用料制度の構築に向けた見直しを定期的を実施します。 ●下水道サービスの提供にあたっては、社会環境の変化により多様化するお客さまニーズを的確に把握するとともに、サービス提供コストが下水道使用料に与える影響を考慮し、判断していきます。 ●汚水事業の新規整備にあたっては、事業効果を含めて慎重に判断しながら実施します。 ●下水処理水の再利用については、事業手法や費用対効果も含めて検討し、事業のあり方を見直します。	評価理由 【決算確定後に評価】	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
8-(1) 企業債残高対使用料収益比率 (%)	587.4	538.1	491.8		452.4		企業債残高（公的負担分除く）／下水道使用料 × 100

(指標評価 平均値)

具体的取組

取組内容		R6年度 目標 R6年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
8-①	企業債発行額を抑制します。	事業に対する補助金等の財源確保に努め、企業債発行を抑制します。 (R6年度指標計画値：452.5%) 【決算確定後に記載】	4	4	
8-②	国等の補助制度の活用に取り組みます。	事業実施において社会資本整備総合交付金や防災・安全交付金等の補助制度を活用します。 汚水整備、浸水対策、地震対策、ストックマネジメントの各事業に国の交付金(5.1億円)を活用しました。	4	4	4
8-③	R6年度の総括原価の算定に向けて社会経済情勢を踏まえた収支計画の策定準備に取り組みます。	R5年度に中間見直しを行った下水道事業経営戦略の収支計画を基に総括原価の算定を行います。 【決算確定後に記載】	4	4	

8-④	下水道使用料改定の必要性の検討に向けた有収水量や使用量収益の動向を把握します。	水需要の動向について、調定水量や調定金額に基づき、把握分析します。 【決算確定後に記載】	4	4	
8-⑤	下水道使用料改定の必要性について検討していきます。	下水道使用料改定の必要性について検討します。 下水道使用料の改正の必要性について、現行制度による経費回収状況の把握を行いました。	4	4	4
8-⑥	汚水の新規整備については、新たな技術も検証し、事業効果を含めた慎重な検討をしながら取り組みます。	地元からの要望状況や事業効果を含めた検討を行い、杉貴谷1丁目他全5地区において、公共下水道整備工事を行います。 地元からの要望状況や事業効果を含めた検討を行い、杉貴谷1丁目地区他全5地区において、公共下水道工事を実施しました。牧野北町地区は繰越となりましたが、杉貴谷1丁目地区他全4地区において公共下水道への接続が可能となりました。	3	4	3
今後の方向性					(具体的取組達成状況 平均値)

【決算確定後に記載】

9	運営基盤の強化	施策評価	
取り組みの方向性	●維持管理の時代に適した人（人材）・モノ（施設）・カネ（財源）が一体となったアセットマネジメントや、適切な被害想定にもとづく防災・減災を推進するという考え方の下、ハード・ソフト対策を組み合わせた非常時のクライシスマネジメントなどを確立していきます。 ●今までの考え方や取り組みにとらわれない業務の再編や執行の効率化等、検証や見直しによる経費の抑制を行い、持続可能な事業運営に取り組みます。 ●人材育成や技術継承はもとより、組織力強化のために業務に精通する専門性の高い職員を適切に配置できる体制を継続します。 ●公民連携、広域化・共同化などの新たな手法に取り組みます。	評価理由 【決算確定後に評価】	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
—	—	—	—	—	—		—

具体的取組

取組内容		R6年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R6年度 実績			
9-①	戦略的かつ円滑な事業運営の推進を図るため、必要に応じて組織の再編を行います。	戦略的かつ円滑な事業運営の推進を図るため、必要に応じて組織の再編を行います。 R6年度より実施した機構改革後の体制について、執行状況等の検証を行いました。	4	4	4
9-②	各種下水道計画の見直しを検討します。	事業の進捗に応じて、必要があれば各種計画の見直しを実施します。 国からの要請を受けて、枚方市上下水道耐震化計画を策定しました。	4	4	4

9-③	災害対策や危機事象に迅速に対応できる体制を確立します。	・災害に備えたシステム等の研修を実施します。 ・大規模災害等の危機事象に備えて、日頃からデジタルMCA無線（携帯局28台）の活用を図ります。 ・危機事象に対して、迅速かつ適切な対応を図るため、局の危機管理マニュアルや災害時初動マニュアル等を活用した訓練を行います。 ・市民等からの土のう要請に対し、迅速な配付を行います。 ・災害に備えたシステム等の研修（計6回）を実施しました。 ・大規模災害等の危機事象に備えて、月1回局内の連携訓練や、その他現場からの通信テストなどデジタルMCA無線（携帯局28台）の活用を図りました。 ・危機事象に対して、迅速かつ適切な対応を図るため、局の災害関係のマニュアルを改訂するとともに、それに基づく設営訓練を実施しました。 ・危機事象に対する災害時初動マニュアルを改訂し、本マニュアルの携帯版を局全職員に配付するとともに、全課に各部署の役割を記載したチェックリストを掲示しました。また、市長部局と連携した図上訓練において、初動マニュアルの活用を図りました。 ・市民等からの土のう要請14件に対し、674袋の配付を行いました。	4	4	4
9-④	災害用備蓄品の適切な管理を行います。	大雨等の災害事象に備え、土のうの適正な保管数（1,800袋）を維持するため、土のう作成を行います。 土のうの適正な保管数に向けて、2,000個の土のう作成を行いました。	4	4	4
9-⑤	近隣市や事業者との応援協力体制を確立します。	災害協定の締結拡充に向けて、関係機関と協議・検討を行います。 災害協定の締結拡充に向けて、北河内7市広域化・共同化検討会において、他市の状況確認を行い、今後の協定締結に向け、協議・検討を行いました。	4	4	4

9-⑥	適正に予算を編成するとともに執行を管理します。	物価高騰等の社会情勢を踏まえ、適正な予算編成と執行管理を行います。 ・人口減少をはじめ、節水意識の浸透や節水機器の普及などライフスタイルの変化などにより水需要の減少傾向が続く中、事業の必要性を十分に検討するとともに、これまでの継続事業についてもそのあり方を見直しました。 ①維持管理等の経常的経費の精査や財源の確保 近い将来に更新を行う予定の施設の修繕にあたっては、更新までの間の機能維持に必要な最低限の修繕を行うこととしました。また、施設の更新にあたっては、国庫補助金の活用を前提とした事業実施の検討を行うこととするとともに、幅広い財源確保に努めました。 一方で、動力費等の高騰による影響が経営に大きな負担となっており、物価高騰を含め予算の編成を行いました。 ②採算性を重視した事業決定 新たな整備事業を決定するにあたっては、事業の目的や優先順位に加えて、その事業により発生する減価償却費や維持管理費と、得られる収入を比較した上で、事業実施を検討し、事業決定を行いました。	4	4	4
9-⑦	下水道使用料等の債権の徴収強化を行います。	納期限を経過した下水道使用料等について、電話催告、訪問徴収等を行うとともに、滞納状況に応じて弁護士名を記載した催告や滞納処分等の法的措置に取り組み、徴収率の向上に努めます。 【決算確定後に記載】	4	4	
9-⑧	保有資産の有効活用に取り組みます。	応募のないマンホール蓋で新規広告掲載を募集します。また、広告掲載中であるマンホール蓋の契約を継続するよう働きかけます。 新たに枚方市駅南口の1箇所では広告掲載を開始し、R2年度から広告掲載している5箇所と合わせて、合計6箇所になりました。 (R6年度分広告料（6箇所）372,570円)	4	3	3
9-⑨	雨水ポンプ場における運転、維持管理業務の民間委託拡充に向けた検証を行います。	民間委託前と同様に運転、維持管理業務を行えるよう監督します。 民間委託前と同様に降雨時の対応や日常の維持管理業務の実施状況を確認し、雨水ポンプ場の民間委託拡充に向け検証しました。	4	4	4

令和6年度「枚方市下水道ビジョン 2022」施策評価シート（速報版）

9-⑩	人材育成や技術継承を行い、組織力の向上を図ります。	・新たに上下水道局に配属された職員を対象に、上下水道局各課の業務を紹介する新入職員研修会を実施します。 ・職場環境の整備等を図るため、職員研修会を実施します。 ・職員の安全衛生意識の高揚を図るため、安全衛生研修会を実施します。	4	4	4
9-⑪	公民連携の新たな手法の活用を検討します。	枚方市の公民連携プラットフォームを活用して民間提案の募集を行うなど、新たな公民連携の手法の活用を検討します。 公民連携プラットフォームでは新たな民間提案はありませんでしたが、下水道用地の有効活用を検討するなど、下水道事業における公民連携について情報収集や検討を行いました。	4	3	3
今後の方向性 （具体的取組達成状況 平均値）					

【決算確定後に記載】

10	積極的な広報活動	施策評価	A
取り組みの方向性	●下水道に関する取り組みや経営状況について情報発信を行い、積極的な広報活動に取り組めます。	評価理由 下水道の日に合わせた情報発信など積極的な広報に努めたため、「A」評価としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
—	—	—	—	—	—	—	—

具体的取組

取組内容		R6年度 目標 R6年度 実績	前々年度	前年度	達成状況
10-①	下水道事業全般の情報発信（広報ひらかた、ホームページ、SNS、出前講座等）を実施します。	・下水道事業について、市民に広く周知するため、「下水道の日」に合わせ、情報発信を行います。また、マンホールカードの配布を行います。 ・小中学校や市内の団体に対して、出前講座を実施します。	4	4	4
（具体的取組達成状況 平均値）					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。

1 1	環境対策と社会目標の実現	施策評価	A
取り組みの方向性	●「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」などの社会目標の実現に向けて、下水道事業を通じて持続可能な社会をめざします。	評価理由 オンライン申請にアクセスしやすい環境を整えるなど「Society5.0」の取り組みを進めました。また、エネルギー削減目標は一部達成できませんでしたが、下水道事業から発生するリサイクル可能資源については積極的なリサイクルに努め、水銀灯のLED化や電気自動車の導入など、環境対策に取り組んでいるため、評価を「A」としました。	

指標

指標名	R3年度末 (基準)	前々年度 実績値	前年度 実績値	R6年度 実績値	目標値 (R10)	評価	説明
11-(1) 建設副産物リサイクル率 (%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	4	再生資源化施設搬出量／建設副産物発生量×100
(指標評価 平均値)						4	

具体的取組

取組内容		R6年度 目標	前々年度	前年度	達成状況
		R6年度 実績			
11-①	建設副産物等の再生資源として有効利用します。	現場で発生する建設資材について、再資源化施設に搬出します。 工事現場でのアスファルトやコンクリートがらの発生量1,189tについて、有効利用のためリサイクル施設への搬出を行いました。	4	4	4
11-②	施設の修繕・更新時における環境負荷低減に取り組めます。	・安居川ポンプ場、サダポンプ場、藤本川ポンプ場のLED化に取り組めます。 ・工事で使用する建設機械については排出ガス対策型を使用します。 安居川ポンプ場の水銀灯をLED照明に取り換えました。 工事で使用する建設機械については排出ガス対策型を使用しました。	4	4	4

令和6年度「枚方市下水道ビジョン 2022」施策評価シート（速報版）

11-③	施設及び公用車のエネルギー削減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。	施設及び公用車のエネルギー使用量について、前年度を基準に1%削減を目標に掲げ、二酸化炭素排出量の削減に努めます。 【施設のエネルギー（庁舎・春日事務所・北部別館）】 ・電気使用量は前年度実績330,892kWhのところ326,101kWhで1.4%削減を達成しました。 ・ガス使用量は前年度実績29,806㎡のところ29,145㎡で2.2%削減を達成しました。 【公用車のエネルギー】 ・ガソリン使用量は前年度実績23,918Lのところ22,881Lで4.3%削減を達成しました。 ・軽油使用量は前年度実績9,594Lのところ9,826Lで2.4%増加となり未達成でした。	3	3	3
11-④	下水道ビジョン2022に関する各課の計画目標・取り組み内容の実現による「SDGs」、「Society5.0」、「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」等を実現します。	R5年度から運用を開始した市下水道排水設備指定工事店の指定手続き等のオンライン利用者数増に向け、ホームページの環境を整えます。	4	4	4
		R5年度から運用を開始した市下水道排水設備指定工事店の指定手続き等のオンライン利用者数増に向け、通知文にオンライン申請の案内や、読取コードを記載するなど、オンライン申請にアクセスしやすい環境を整えました。その結果、更新手続きのオンライン申請の割合については、75%（昨年度より33%増）になりました。			
		「上下水道局の公用車の電動化に関する方針」に係る導入計画に基づき、公用車の電動化に取り組みます。※R6年度は2台導入予定です。	4	4	4
今後の方向性					
(具体的取組達成状況 平均値)					4

今後の方向性

今後も引き続き取り組んでいきます。